

バス情報の静的・動的データ利活用検討会の設置について

1. 趣旨

インターネット等においては、駅名や停留所名だけでなく、出発地と目的地を入力することで、適切な公共交通機関を組み合わせた経路検索を行えるようになり、交通に関する予備知識がなくても公共交通を利用しやすい環境が整いつつあるが、中小のバス事業者においてはデータ自体が整備されていないことが多い。そのため、交通事業者と経路検索サービスを提供するコンテンツプロバイダーの間で利用しやすいデータフォーマット「標準的なバス情報フォーマット」（以下、静的データフォーマット）を策定し、データが未整備な交通事業者の取組の活性化を図っているところである。

最近では、時刻表や運行経路等の静的情報だけでなく、交通機関の遅延情報や運行情報等の動的情報についても、交通事業者で作成しているホームページ等で入手できるようになりつつある。これは、バスの運行は道路混雑状況等により日常的に遅延が発生することが多いため、動的情報についての要望は高く、また、最近の情報技術の発達によりバスロケーションシステムの導入コストも低下してきているためである。

さらには、MaaS（Mobility as a Service）と呼ばれるサービスの提供について各方面で議論が進んでおり、動的情報を整備し、利用者へ提供することはMaaSシステムの構築において必要不可欠なものと見込まれる。

しかしながら、動的データの効果的なデータ活用には至っておらず、未導入の事業者も多いのが実状である。交通事業者が動的情報を利活用しやすい状況となってきたにもかかわらず、整備・普及が停滞しているのは、静的データフォーマットのような標準的なデータフォーマットが整備されていないことが一因になっていると考えられる。

以上を踏まえ、有識者、関係事業者、省内関係部局等をメンバーとする検討会を設置し、バス事業者の所有する動的データから得られる情報を整理し、データの標準化を目指すとともに、静的データフォーマットを含めて、標準化したフォーマットの継続的な更新のあり方の検討を行い、バス事業者の交通に関する情報等の効率的な利活用に向けた方策の具体化を図る。